

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670600018		
法人名	特定非営利活動法人にしいや		
事業所名	グループホームもみじ		
所在地	徳島県三好市西祖谷山村西岡向110-1		
自己評価作成日	平成28年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然環境に恵まれたところこ位置している。寒さが厳しい冬季以外は外出し散歩を楽しんだり四季折々の自然にれ季節を感じていただける環境にあり、また畑で旬の野菜を作付け収穫し働く喜びや生育の楽しみ、収穫の喜び、美味しくいただけるありがたさを感じていただける。また、定期的に歯科往診があり、治療や口腔ケアの支援を行っている。月1回理学療法士の指導を得て個別のリハビリを行っている。利用者が心身ともに健康で自分らしく穏やかに生活できるよう一人一人の能力に応じた生活を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然環境の豊かな場所に立地しており、寒さが厳しい冬季以外は、外で散歩を楽しんだり、四季折々の自然に触れて季節を感じてもらったりしている。職員は、利用者の生活歴から一人ひとりの理解を深めるよう努め、時間をかけて寄り添う支援に努めている。全職員で活発に意見交換を行っており、出された意見や提案は共有してサービスの質の向上や環境改善に繋げている。気候の良いときには屋外散歩を行っており、冬場には音楽に合わせて室内で安全歩行を行い、下肢筋力の維持に努めている。立位が安定することで、本人の能力の引き上げとなり、転倒予防や職員介助の負担軽減にも繋がっている。定期的に歯科往診があり、治療や口腔ケアを行っている。月1回、理学療法士の指導を得て個別のリハビリを行うなど、利用者が心身ともに健康で自分らしく穏やかに生活することができるよう一人ひとりの力に応じた生活を支援している。また、事業所は地域の拠点となっており、近隣住民の来訪や各種研修や交流の場として位置づけられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「家庭的な環境の中で自分らしく穏やかな生活を支援します」を掲げている。リーダー会議やモニタリングなどを利用し、日常生活での問題や要望などを検討している。理念に基づき検討した内容を職員で共有し支援に努めている。	事業所では、リーダー会議等の際に理念を再確認し、そのつど初心に立ち返り意識付けを行うようにしている。理念を職員間で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	訪問販売の方が来所されるので地域の方が買い物に来られ一緒に買い物をされたり、地域の学校、婦人会、地区住居会等の訪問があり知人に会えることもあり楽しみにされている。	事業所に訪問販売車の来訪があるため地域の方も買い物に来ており、その際に交流を行っている。利用者や職員で中学校の運動会に出かけている。地域の子どもたちや婦人会、老人会のボランティアなど、幅広い年代層の来訪がある。事業所は住民活動の拠点となっており、県職員や医療関係の研修の場としての受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験実習等受け入れ、認知種について偏見な目で見るとはならず、実際にふれ合っ頂き、生き生きと生活をされている姿を見て偏見をなくし理解を深めて頂いている。介護の仕事についても理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告や苦情に関する状況等の説明を行い意見を聞いている。	運営推進会議には、利用者や家族、地域住民、市担当者や地域包括支援センター職員、社協職員等の出席を得ている。事業所からの報告のほか、出席者から様々な情報を得たり、活発な意見交換を行ったりしている。出された意見は職員会議で共有したり、他機関に働きかけたりして、利用者の健康管理や事業所の環境整備に繋げている。しかし、定期的に開催するまでには至っていない。	運営推進会議は定期的に開催されることが望ましい。今後、2か月に1回の開催に向けて検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議で情報交換を行っている。	日頃から、市担当者とは電話で情報交換を行っている。事業所の現状について理解してもらっており、各種手続き方法や助成等の説明を得るなどして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様本位の心のケアを心がけているので、生命に危険が及ぶこと、他の方に危険行為がある以外は行なってはならない事を常々話し合っている。	身体拘束に関するマニュアルを整備している。申し送りノートを活用し、日頃の職員の気づきを話し合っている。見守りを中心とした支援を心がけ、利用者自身の自己決定を促すことができるような支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の施錠をしない、言葉の暴力、肉体的暴力をしない。日常的に申し送り時に確認し合っている。全職員がマニュアルを確認し理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については職場内で研修を行っているが、現状では行っていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を説明し十分理解をいただいてから、納得されて安心されてから契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来所されたとき、気安く職員に話せる雰囲気作りを心掛け意見や苦情がないか聞いている。御家族からの相談、依頼、苦情については早々に毎日の申し送り時、リーダー会議、モニタリング時に話し合っている。	日頃から職員は、利用者との関わりの中で要望や意見を聞くよう心がけている。事業所では日頃の利用者の暮らしぶりを写真と職員の気づきを添えて家族に送付している。家族の来訪時には現状報告のほか、職員から積極的に話しかけ、意見を表出しやすい雰囲気作りに努めている。また、遠方の方には電話や手紙で連絡等を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、リーダー会議、モニタリング時に話し合っている。	管理者は日頃の業務を通じて職員の意向を把握するよう努めている。職員は定例会議以外にも日頃の気づきをその場で管理者に報告しており、管理者は職員や代表者等と話し合っ運営面に活かすようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、仕事のしやすい環境づくりについて共に協議したり、ねぎらいの言葉や叱咤激励をおこなっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、個々のレベルを把握したうえで、質の向上になるよう、職場内研修や職場外研修を考えている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域性もあって同業者との交流は行えていない。地域診療所の声掛けで、行政や各介護職員との交流会を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初に本人の希望や要望を聞き、計画に反映している。モニタリング会議で状況の変化を確認し計画に反映している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と相談し、要望等を聞いている。家族の意向も踏まえた計画作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべく家族の希望や要望にそったサービスとなるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境作りを目ざしている。利用者様と職員は家族の一員として一緒にできることは一緒に、お手伝いをお願いすることも遣り甲斐につなげられるようにしている。家族協力して家庭を築くことを基本としている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回、家族と共に食事会を開催している。利用者や家族、職員が意見交換をしながら楽しんでいる。また、家族に月1回、利用者の日頃の生活の様子と写真を送付して近況を把握し安心していただけるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に相談のうえで、本人の要望にできるだけそえるよう努めている。また、利用者の馴染みの地域を散策している。	事業所では、家族会や敬老会などの交流の機会を設けている。天候の良い日には、自宅近辺や住み慣れた場所へのドライブや花見に出かけている。家族の協力を得て、買い物や外食、または馴染みの場所へ出かけている。友人や知人の来訪時には、ゆっくりと過ごすことができるよう支援している。事業所で家族とともに食事や宿泊をすることができるよう環境整備を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者の意見を聞き、納得を得たうえで支援するよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は状況を聞く程度の取り組みとなっている。また、退去後も家族の相談に応じる等の配慮に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活状況を家族から聞いている。また、本人の希望をなるべく生活の中で反映できるよう努め、困難な場合には家族から話をさせていただき納得を得ている。	職員は、まず利用者自身の状況を知ることが第一と考え、一人ひとりに応じた言葉かけを行い意向を把握するよう努めている。意思疎通の困難な方には、表情や些細な仕草の変化から意向の把握に努めたり、家族から情報を得たりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様を理解することにより、安心していただけ穏やかな生活になるよう勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間24時間の姿を日誌に記録、職員間の話し合い等で細かな姿を見つめ、個々の心のケア、身体ケアに繋がるよう些細なことにも目配り気配りのある支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専用の用紙や介護記録経過ノートを活用している。家族と相談した内容を計画に反映している。	日頃の利用者の様子を記録した介護記録ノートを活用し、本人や家族の意向を確認したうえで、職員や関係者で話し合っ介護計画を作成している。利用者のできることに着目し、一人ひとりの残存能力の向上に向けた介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間24時間の姿を日誌に記録、職員間の話し合い等で細かな姿を見つめ、個々の心のケア、身体ケアに繋がるよう些細なことにも目配り気配りを心がけ、老後の生活が満たされるよう計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員から出された意見等職員間で話し合っ状況に応じた柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービス事業所として、地域住民の参画をなるべく促せるようにイベントを実施している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、利用者の望むかかりつけ医の受診を支援している。地域以外の遠くにある病院は家族に対応してもらっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。市外の医療機関等への通院は家族に対応してもらっている。職員が付き添う場合は、受診結果を家族に報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域診療所や県立病院に相談している。また、利用差の状況に応じて、医師と相談し訪問看護などに繋げている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむを得ず、入院に至った場合でも、定期的に訪問し、担当看護師に状況を聞いている。また、家族に連絡し要望を聞いている。家族から出された意見や要望は病院との話し合いの中で検討している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に変化が見受けられた際は、家族と主治医と連絡、相談をおこなっている。また、今後の対応について家族と医師、管理者間で話し合いを行っている。	入居時の段階で、本人や家族に事業所にてできことについて重要事項説明書に基づき説明を行っている。本人の身体状況の変化に応じて、家族や医師、関係者間で話し合い、対応方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制はできているが、応急処置についてはできていない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や緊急連絡体制を整備している。避難訓練は実施している。地域状況もあり近隣住民の協力が得られにくい。	日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。食料や飲料水の備蓄、ガス釜、発電機の用意のほか、避難経路の整備、介助が必要な方のためのマークを居室の入り口につけるなどの工夫を行っている。地域の中学生の協力を得て避難訓練を実施したり、市の防災訓練時には、避難所のエレベーターの不具合のチェック等、実践的な取り組みをしている。また、事業所は地域の避難所としても開放している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	精神的に安心した生活が出来るよう、一人ひとりを大切な人として対応するように心がけている。	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損なうことが無いよう、言葉かけや一人ひとりのその人らしさを尊重した支援、自尊心を傷つけないケアなどを心がけている。利用者を尊重した支援のあり方について職員間で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを話せるような環境作りを心がけている。素直な気持ちを引き出せるよう会話を増やし、自分で出来る範囲の判断をしていただけるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の状況に合わせて、満足できる一日になるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時好みの服を選んでいただいたり、外出時の服装を選んでいただいている。行事の前には爪の手入れ、お化粧品など意思に沿って支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日食べたいものを聞いて出来る物を作ったり利用者様と一緒に食事作りをしていただいている食後の後片付けも出来る方に手伝っていただいている。	誕生日のお祝い料理や季節の行事食等を取り入れている。栄養面については、管理栄養士にチェックしてもらっている。利用者一人ひとりの好みや力を活かしつつ、利用者と職員で準備や食事、片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々の状況を各職員から出された意見等職員間で話し合っって状況に応じた柔軟な対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	地域密着型サーおとしてビ業所として、地域住民の参画をなるべく促せるようにイベントを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排泄チェックを参考に個々の状態を把握して気分良くトイレの使用ができるよう言葉掛けの方法などで自立支援にむけて努力している。	職員は利用者の排泄パターンの把握に努めている。また、トイレへの誘導支援を行う際には排泄状況の確認を行っている。排泄に時間を要しても本人の力を活かすように努め、自立に向けた補助的な介助を行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	地域診療所や県立病院に相談している。また、利用差の状況に応じて、医師と相談し訪問看護などに繋げている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	やむを得ず、入院に至った場合でも、定期的に訪問し、担当看護師に状況を聞いている。また、家族に連絡し要望を聞いている。家族から出された意見や要望は病院との話し合いの中で検討している。	職員は、利用者一人ひとりに希望する入浴時間を聞いている。入浴の順番も工夫しており、当日に意向を確認したうえで入浴してもらっている。洗身も本人の能力に応じた介助を行い、一人ひとりが気持ち良く入浴することができるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に変化が見受けられた際は、家族と主治医と連絡、相談をおこなっている。また、今後の対応について家族と医師、管理者間で話し合いを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	緊急時の対応や連絡体制はできているが、応急処置についてはできていない。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おお鶯も避難場所や緊急連絡体制を整備している。避難訓練は実施している。地域状況もあり近隣住民の協力が得られにくい。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が住慣れあ他地域出かけて散歩したり、季節に応じた外出の支援をおこなっている。	天候の良い季節には、利用者と職員で戸外へ散歩に出かけている。墓参りや季節に応じた花見、地域の行事等、一人ひとりの外出への希望を聞き、家族と相談したうえで外出の支援を行っている。また、外食に出かける際には、家族会や研修生の協力を得ている。職員が特別食を作ったり、お店をお願いしたりして全員が楽しむことができるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理していただいている方もいるが、困難な方は担当職員が管理し本人の希望時に渡して、買い物時に支払をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの畳の間に掘炬燵を設置し、野外の様子を窺えるようにしている。テラスには、長椅子を置き、利用者が野外を見ながらゆったりとくつろぐことができる。	事業所の共用空間では調理の音や匂いを感じることができ、利用者は調理の手伝いをしたり、洗濯物をたたんだりしている。利用者によっては、窓の外を眺めたり、利用者同士で談笑したりしており、思い思いにゆったりと過ごすことのできる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人部屋となっている。好みに畳を敷いておられる方もいる。また、テラスや玄関の長椅子で利用者同士が会話を楽しむことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた馴染みの品物を持ち込んで生活している。	事業所では、利用者や家族と相談し、居室に使い慣れた品物を持ち込んでもらっている。居室では、本人が趣味を楽しんだり、友人や家族とゆっくり会話を楽しんでもらうことのできるような環境作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を貼り、よく行く場所にはマークを付けるなどの工夫をし、分かりやすくしている。トイレの場所がわかるよう便所と書いた張り紙をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「家庭的な環境の中で自分らしく穏やかな生活を支援します」を掲げている。リーダー会議やモニタリングなどを利用し、日常生活での問題や要望などを検討している。理念に基づき検討した内容を職員で共有し支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	訪問販売の方が来所されるので地域の方が買い物に来られ一緒に買い物をされたり、地域の学校、婦人会、地区住居会等の訪問があり知人に会えることもあり楽しみにされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験実習等受け入れ、認知種について偏見な目で見るのでなく、実際にふれ合っ頂て頂き、生き生きと生活をされている姿を見て偏見をなくし理解を深めて頂いている。介護の仕事についても理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告や苦情に関する状況等の説明を行い意見を聞いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議で情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様本位の心のケアを心がけているので、生命に危険が及ぶこと、他の方に危険行為がある以外は行なってはならない事を常々話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の施錠をしない、言葉の暴力、肉体的暴力をしない。日常的に申し送り時に確認し合っている。全職員がマニュアルを確認し理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については職場内で研修を行っているが、現状では行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を説明し十分理解をいたしてから、納得されて安心されてから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来所されたとき、気安く職員に話せる雰囲気作りを心掛け意見や苦情がないか聞いている。御家族からの相談、依頼、苦情については早々に毎日の申し送り時、リーダー会議、モニタリング時に話し合っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、リーダー会議、モニタリング時に話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、仕事のしやすい環境づくりについて共に協議したり、ねぎらいの言葉や叱咤激励をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、個々のレベルを把握したうえで、質の向上になるよう、職場内研修や職場外研修を考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域性もあって同業者との交流は行えていない。地域診療所の声掛けで、行政や各介護職員との交流会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初に本人の希望や要望を聞き、計画に反映している。モニタリング会議で状況の変化を確認し計画に反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と相談し、要望等を聞いている。家族の意向も踏まえた計画作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべく家族の希望や要望にそったサービスとなるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境作りを旨としている。利用者様と職員は家族の一員として一緒にできることは一緒に、お手伝いをお願いすることも遣り甲斐につなげられるようにしている。家族協力して家庭を築くことを基本としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回、家族と共に食事会を開催している。利用者や家族、職員が意見交換をしながら楽しんでいる。また、家族に月1回、利用者の日頃の生活の様子と写真を送付して近況を把握し安心していただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に相談のうえで、本人の要望にできるだけそえるよう努めている。また、利用者の馴染みの地域を散策している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者の意見を聞き、納得を得たうえで支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は状況を聞く程度の取り組みとなっている。また、退去後も家族の相談に応じる等の配慮に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活状況を家族から聞いている。また本人の希望をなるべく生活の中で反映できるよう努め、困難な場合には家族から話をしていただき納得を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様を理解することにより、安心していただけ穏やかな生活になるよう勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間24時間の姿を日誌に記録、職員間の話し合い等で細かな姿を見つめ、個々の心のケア、身体ケアに繋がるよう些細なことにも目配り気配りのある支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専用の用紙や介護記録経過ノートを活用している。家族と相談した内容を計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間24時間の姿を日誌に記録、職員間の話し合い等で細かな姿を見つめ、個々の心のケア、身体ケアに繋がるよう些細なことにも目配り気配りを心がけ、老後の生活が満たされるよう計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員から出された意見等職員間で話し合っって状況に応じた柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービス事業所として、地域住民の参画をなるべく促せるようにイベントを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、利用者の望むかかりつけ医の受診を支援している。地域以外の遠くにある病院は家族に対応してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域診療所や県立病院に相談している。また、利用差の状況に応じて、医師と相談し訪問看護などに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむを得ず、入院に至った場合でも、定期的に訪問し、担当看護師に状況を聞いている。また、家族に連絡し要望を聞いている。家族から出された意見や要望は病院との話し合いの中で検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に変化が見受けられた際は、家族と主治医と連絡、相談をおこなっている。また、今後の対応について家族と医師、管理者間で話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制はできているが、応急処置についてはできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や緊急連絡体制を整備している。避難訓練は実施している。地域状況もあり近隣住民の協力が得られにくい。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	精神的に安心した生活が出来るよう、一人ひとりを大切な人として対応するように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを話せるような環境作りを心がけている。素直な気持ちを引き出せるよう会話を増やし、自分で出来る範囲の判断をしていただけるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の状況に合わせて、満足できる一日になるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時好みの服を選んでいただいたり、外出時の服装を選んでいただいている。行事の前には爪の手入れ、お化粧品など意思に沿って支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日食べたいものを聞いて出来る物を作ったり利用者様と一緒に食事作りをしていただいている食後の後片付けも出来る方に手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々の状況を各職員から出された意見等職員間で話し合って状況に応じた柔軟な対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	地域密着型サーおしてビ業所として、地域住民の参画をなるべく促せるようにイベントを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排泄チェックを参考に個々の状態を把握して気分良くトイレの使用ができるよう言葉掛けの方法などで自立支援にむけて努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	地域診療所や県立病院に相談している。また、利用者の状況に応じて、医師と相談し訪問看護などに繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	やむを得ず、入院に至った場合でも、定期的に訪問し、担当看護師に状況を聞いている。また、家族に連絡し要望を聞いている。家族から出された意見や要望は病院との話し合いの中で検討している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に変化が見受けられた際は、家族と主治医と連絡、相談をおこなっている。また、今後の対応について家族と医師、管理者間で話し合いを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	緊急時の対応や連絡体制はできているが、応急処置についてはできていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おお鶴も避難場所や緊急連絡体制を整備している。避難訓練は実施している。地域状況もあり近隣住民の協力が得られにくい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が住慣れあ他地域出かけて散歩したり、季節に応じた外出の支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理していただいている方もいるが、困難な方は担当職員が管理し本人の希望時に渡して、買い物時に支払をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの畳の間に掘炬燵を設置し、野外の様子を窺えるようにしている。テラスには、長椅子を置き、利用者が野外を見ながらゆったりとくつろぐことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人部屋となっている。好みで畳を敷いておられる方もいる。また、テラスや玄関の長椅子で利用者同士が会話を楽しむことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた馴染みの品物を持ち込んで生活している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を貼り、よく行く場所にはマークを付けるなどの工夫をし、分かりやすくしている。トイレの場所がわかるよう便所と書いた張り紙をしている。		